

数学

<全体分析>

試験時間	60分	解答問題数	5題
------	-----	-------	----

<p>解答形式 客観式</p> <p>分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)</p> <p>出題の特徴 客観式とは言え、記述式の大問と同等の問題がいくつか出題されており、制限時間内で解き終えるのは非常に難しい。</p> <p>その他トピックス 理系は、数Ⅲの「微分積分」からの出題がなかった。 問2が小問集合になった。</p>
--

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
問1	場合の数と確率	数学A	$a_1, a_2, b_1, b_2, c_1, c_2, d_1, d_2$ を2個ずつ4組に分けるときの、 $\{a_1, a_2\}$ のような同種の文字の組ができない確率を求める。余事象で考えるのだが、経験がないと難しい。	やや難
問2(1)	指数関数と対数関数	数学Ⅱ	連立不等式が表す $x-y$ 平面上の領域の面積を6分の1公式を用いて計算する。	標準
(2)	図形と計量	数学Ⅰ	3辺の長さが与えられた三角形の面積を計算する。	易
(3)	整数の性質	数学A	n 進法で2021と表される整数が素数になる最小の n 、合成数になる最小の n をそれぞれ求める。 n が3以上に注意する。	易
問3	図形と方程式	数学Ⅱ	絶対値記号を含む1次不等式で表された領域内の格子点の個数を求める。	やや難
問4	複素数平面 平面ベクトル	数学Ⅲ 数学B	一辺の長さを半分にした正三角形を次々につないでいったときの頂点の極限を求める。	やや難
問5	数列の極限 式と曲線 式と証明	数学Ⅲ 数学Ⅱ	方針は見えていても計算が面倒。 双曲線の漸近線や接線と他の直線の交点を結んでできる2つの三角形の面積比の最大値を相加・相乗平均の不等式などを用いて求める。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

<p>例年、数学Ⅰ、A、Ⅱ、B、Ⅲの主要分野から、標準レベルの問題を中心に問題を出題されるので、高校で使っている問題集などで偏りなく、典型的な手法を身につけることが大切。 また、試験時間が60分と短いので、やや難レベルの問題に挑戦するより、標準レベルまでの問題を正確に素早く解決する練習を積んでおかなければならない。</p>
--